

大阪市障がい者施策推進協議会部会  
第1回大阪市地域自立支援協議会 議事要旨

日時：平成26年8月8日（金）  
午後2時00分から午後4時00分  
場所：大阪市役所 屋上階会議室

<事務局より一連の資料を説明>

**【議題1. 各区地域自立支援協議会の開催状況及び開催予定について】**

・各区の課題について、市の方にその課題を吸い上げるシステムが確立されていないため、各区で課題を抱えてしまっている状況にあり、各区の地域自立支援協議会に参画している事業者等が苦勞している。市と区の関係性が複雑になっており、市として区に対して指導ということが難しいのは分かるが、区の状況や課題を把握する意味でも、市と区との連携を深めるとともに、課題を吸い上げるシステムの確立が急務である。

・各区の状況に応じて、様々な部会の設置が必要であるが、各区役所の担当者の対応にバラつきがあり、積極的に関わろうとしないところが見られている。担当者が異動等で定期的に変ってしまうのは仕方ないが、その都度、市より区の担当に対し、地域自立支援協議会の位置付けや区の役割についてしっかりと説明してほしい。

⇒各区の取り組み状況の把握を行い、取り組みの充実に努めていくとともに、8月20日の連絡会の方でも、本日の意見については説明する。また、区の意見や課題を集約する方法についても検討していく。

**【議題2. 障がい者基幹相談支援センターの事業報告及び事業計画について】**

・相談支援専門員に対して実施している研修において、アンケートを実施したところ、精神障がいのある方への対応が分からないなどの理由から、受け入れ困難であると答えている事業所が多く、地域移行を進めるにあたってネックになっている。

⇒どういった問題から受け入れ困難となっているかについて現状分析を行い、区の障がい者相談支援センターや地活センター（生活支援型）で、指定一般相談支援事業所への技術支援を行うなど、方策を検討していく。

**【議題3. 各区障がい者相談支援センター運営評価の実施について】**

・自己評価シートを各区の地域自立支援協議会であげてもらった時に、シートに各区の地域自立支援協議会ででた課題も併せて記載し、大阪市にあげるようにするなど検討してみようか。

⇒運営評価時に併せて、区の意見や課題を集約できるのであれば、方法の一つとして検討

していく。

**【議題4. 指定相談支援事業の実施状況について】**

・都道府県の計画相談の実施率（達成率）について、大阪府は数値が低いですが、数値の低さの要因の分析や、愛知県のような高いところの分析を行い、分析に基づき、大阪市としてしかるべき措置や働きかけを行っていくべきである。

・計画相談支援や地域移行支援の件数と比較して、地域定着支援の件数に占める精神障がいのある方の件数が著しく低くなっており、そのあたりの現状分析を引き続き行ってほしい。

⇒計画相談支援の実施率（達成率）が低調な理由は、報酬の問題等による事業者数の不足が要因と考えられる。また、他の実施率が高い都道府県の手法について把握を行っているが、中々どの自治体にも適用できるかとなると困難な部分がある。現在行っている、各区レベルでの事業者向け説明会に本課から出向くなど、地道な取り組みを続けていきたい。

**【議題5. 次期「大阪市障がい者支援計画及び大阪市障がい福祉計画」に向けた検討状況について】**

・支援計画の中間見直し、また来年度27年度からの3年間の第4期の障がい福祉計画の策定という、この2つを併せて今検討している。

⇒まだワーキングの最中であり、とりまとめができましたら、また各地域自立支援協議会の委員の方にも送付し、またご意見いただければと考えている。

**【議題6. 障がい者相談支援あり方検討会について（報告）】**

・資料6は、今後の大阪市の障がい者相談支援体制の方向性の基になるものとして、記述を見ると、基幹障がい者相談支援センターに対する記述など、現状をしっかりと把握しているのか疑問に思ってしまうところがある。

・全体的な相談支援体制の話になるので、障がい福祉課だけでなく、障がい支援課、こころの健康センター等関係機関で連携した上で、方向性を確立してほしい。

・地域相談支援として、矯正施設以外にも、救護施設等もあることから、そういった施設からの地域移行時の対応についても考えてほしい。

・今後も、様々な検討課題について、地域自立支援協議会の開催回数を増やすことが難しいのであれば、部会やワーキングなどを開催していくべきである。

⇒本市として、相談支援体制において様々な課題があることは認識している。今後も引き続き、障がい福祉課だけでなく、障がい支援課やこころの健康センター等関係機関と連携し、方向性の検討を行っていく。また、部会の設置やワーキングの開催など柔軟な体制で、議論を深めていく場の設定も検討していく。